

Title	政府規制と企業戦略 - 収益構造の視点より -
Sub Title	
Author	山下忠顕(Yamashita, Tadaaki) 伏見多美雄
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1989
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1989年度経営学 第726号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001989-0726">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001989-0726</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名 山下 忠 顕  
(エッソ石油株式会社)  
所属ゼミナール 伏見 多美雄 研

主査 伏見 多美雄  
副査 柴田 典 男  
柳原 一 夫

## 政府規制と企業戦略 — 収益構造の視点より —

今日、日本の多くの業界で規制緩和 (Deregulation) の動きが見られるが、本論文では、企業活動の制約条件としての政府規制とその緩和が、その業界に属する企業の行動・戦略に如何なる変化・影響を及ぼしていくかという問題について、企業の収益構造の視点から分析を試みたものである。

前半の第1部では、政府規制についての理論的なアプローチを行っている。まず、日本の産業政策の視点による研究から、政府規制の底にある基本理念及び特徴的な概念の整理を行った。次に、個別企業の視点から政府規制を、業界への参入規制、生産販売のキャパシティーへの規制、生産販売活動への規制に整理・分類を行った後、政府規制及びその緩和とそれに対応しながら利益の増加を図っていく企業行動との理論的メカニズムを、収益構造の視点から構造化した。

後半の第2部では、第1部で構造化された収益構造分析のフレーム・ワークを用いながら、政府規制とその緩和が、規制されてきた業界 (航空業界、石油業界) に位置する企業の収益構造にどのような影響を与えているのかという分析を試みている。

例えば、航空業界において、規制下での定期便事業における費用の大部分が固定費と考えられる。そこで航空会社は「高固定費型企业」としての戦略を採らねばならないが、一方で規制緩和が進むにつれて変動費の割合は増えてくると予想されるのである。また、石油業界は、典型的な装置産業であり規模の経済が働くなど固定費要素の高い産業と言われているが、実際は変動費率が90% (その大部分が原油コスト) の「高変動費型企业」であり、値下げによる拡販戦略の効果はほとんど無いと言えよう。

このような視点に立ちながら、これらの企業が如何なる戦略を選択していくべきかについての考察も併せて行っている。